

## ● 末梢神経障害(手足のしびれ)

抗がん剤の投与により手足の知覚神経や運動神経が損傷されることによって引き起こされるしびれや痛みを伴う症状です。この副作用は抗がん剤全般にみられるのではなく、ある特定の抗がん剤(ビンクリスチン、パクリタキセル、オキサリプラチン、ボルテゾミブなど)が投与されたときに生じることがあります。

症状としては、足先や指先の感覚の麻痺、しびれ、痛みがあり、手足に力が入らない、手がしびれて物が持てない、ボタンがかけられない、手足の皮が厚くなった感じがする、などがあります。ひどい場合には治療を一時中断したり、変更することがあります。

症状が出るのは点滴後3～5日目頃であり、治療が終わっても症状が持続し、治まるまでに数カ月～1年以上と長期間かかることもあります。



### <末梢神経障害に対して使われるお薬>

ビタミン剤や漢方薬などが使われることがありますが、それらの効果についてははっきりしていません。最近、プレガバリン(リリカ®)という薬が開発され、末梢神経障害による痛みに対する保険適応薬となっています。この薬を続けて服用することにより、症状を軽減したり進行を抑えることが期待されます。

### <セルフケアのポイント>

- 足を締め付ける靴下や靴を履かないようにしましょう。
- マッサージしたり、温めたりすると症状が和らぐことがあります。ただし、症状が悪くなった場合は、中止してください。
- 小さな傷に気付かず悪化していることがあるので、傷がないかこまめに確認しましょう。
- しびれで転びやすくなるので、注意しましょう。
- 感覚が鈍くなるので、けが、火傷、凍傷に注意しましょう。
- 冷たい食べ物や飲み物は避けましょう。